

日本慢性期医療協会 定例記者会見

日時：平成27年8月6日17:00～

場所：東京研修センター

1) 医療区分からDPCに変えてはどうか。

「医療区分」は突然に導入されたものである。ならば突然に廃止してもよいはず。

2) 廃止するまでの間、過渡的に「認知症」を医療区分に入れてはどうか。

3) 「認知症」は疾病である。

本来看護必要度のA項目に入れるべきものであるが、B項目でもない。

認知症の項目として、認知症高齢者の日常生活自立度を取り入れてはどうか。

4) 「認知症」合併患者は急増している。

これらの領域は主に内科の診療範囲である。

5) 日慢協は「認知症」の治療と予防に全力を尽す。

DPCデータ提出に係る評価の見直しについて

- データ提出加算について、現在データ提出の対象となっていない病棟についてもデータを提出することとし、すべての病院でデータ提出加算の届出を可能とする。
- また、データ提出加算参加の機会が年1回に限られていることから、参加機会を増やす。

現行

【データ提出加算1（入院データ提出）】（退院時1回）
イ（200床以上）100点、ロ（200床未満）150点
【データ提出加算2（入院＋外来データ提出）】（退院時1回）
イ（200床以上）110点、ロ（200床未満）160点

【算定要件】

- ・7対1及び10対1入院基本料（一般病棟入院基本料（一般病棟に限る。）、特定機能病院入院基本料、専門病院入院基本料（一般病棟に限る。））を届け出ていること。
- ・診療録管理体制加算に係る届出を行っていること（同等の体制を有している場合を含む）。等

【対象病棟】

- ・一般病棟入院基本料（7対1入院基本料及び10対1入院基本料に限る。）、精神病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（7対1一般病棟入院基本料、10対1一般病棟入院基本料及び精神病棟に限る。）、専門病院入院基本料（7対1及び10対1に限る。）、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、総合周産期特定集中治療室管理料、新生児治療回復室入院医療管理料、一類感染症患者入院医療管理料、小児入院医療管理料、精神科救急入院料、精神科急性期治療病棟入院料、精神科救急・合併症入院料、児童・思春期精神科入院医療管理料、短期滞在手術基本料3

【参加機会】

- ・年1回（原則5月）

改定後

【データ提出加算1（入院データ提出）】（退院時1回）
イ（200床以上）100点、ロ（200床未満）150点
【データ提出加算2（入院＋外来データ提出）】（退院時1回）
イ（200床以上）110点、ロ（200床未満）160点

【算定要件】

- ・診療録管理体制加算に係る届出を行っていること。等

【対象病棟】

- ・全ての病棟（短期滞在手術基本料1を除く）

【参加機会】

- ・年4回（5月20日、8月20日、11月20日、2月20日（※））

（※）平成27年度においては2月22日



【経過措置】※終了済

平成26年3月31日までに届出を行っている病院については、平成27年3月31日までの間、基準を満たしているものとする。

DPCデータの提出状況

- 平成26年度診療報酬改定では、急性期を担う医療機関の機能や役割を適切に分析・評価するため、7対1入院基本料や地域包括ケア病棟基本料等において、データ提出加算の届出を要件化した。
- データの提出状況は、平成26年11月時点で7対1入院基本料では90%、地域包括ケア病棟入院料では70%であった。また、10対1入院基本料でも45%程度の病床がデータの提出を行っていた。

データの提出が必要な病棟について

	DPC対象病院 ／DPC準備病院	出来高病院
7対1入院基本料届出医療機関	○	○
10対1入院基本料医療機関	○	×
地域包括ケア病棟入院料医療機関		○
回復期リハビリテーション病棟入院基本料医療機関		×
療養病棟入院基本料医療機関		×

○：該当する場合、全病棟の患者についてデータ提出が必要
 ×：データ提出の義務なし
 -：単独でDPC対象病院にはなり得ず、非該当
 ※黄セルは平成26年診療報酬改定で新たにデータ提出加算が要件化された

データの提出状況（平成26年11月時点）

	データ提出届出 病床数割合
7対1入院基本料（n=313）	96.5%
10対1入院基本料（n=280）	43.9%
地域包括ケア病棟基本料（n=106）	72.4%
回復期リハビリテーション病棟入院基本料 （n=203）	33.7%
療養病棟入院基本料（n=542）	10.7%

※集計時点が平成26年11月1日時点のため、7対1入院基本料及び地域包括ケア病棟基本料の提出割合が100%になっていないと考えられる。

040130

呼吸不全（その他）

手術

なし

手術・処置等 2

なし

①464 040130xx99x0xx

あり

②465 040130xx99x1xx

あり

手術・処置等 2

なし

③466 040130xx97x0xx

あり

④467 040130xx97x1xx

樹形図 番号	入院期間			A 日以下		A 日超 B 日以下		B 日超 C 日以下	
	A	B	C	入院期間①	点数／日	入院期間②	点数／日	入院期間③	点数／日
①464	5	10	23	1～5 日	2,685	6～10 日	1,984	11～23 日	1,687
②465	7	19	48	1～7 日	3,195	8～19 日	2,526	20～48 日	2,147
③466	8	22	54	1～8 日	2,673	9～22 日	2,120	23～54 日	1,802
④467	25	56	132	1～25 日	3,491	26～56 日	2,664	57～132 日	2,265

ICD 名称（040130 に対応する傷病名）

J96\$ 呼吸不全，他に分類されないもの

手術・処置等 2

G005 中心静脈注射

J045\$ 人工呼吸

手術

K386 気管切開術
その他の K コード



樹形図 番号	入院期間			A日以下		A日超B日以下		B日超C日以下	
	A	B	C	入院期間①	点数/日	入院期間②	点数/日	入院期間③	点数/日
①435	6	13	28	1～6日	2,942	7～13日	2,175	14～28日	1,849
②436	9	21	52	1～9日	3,623	10～21日	2,803	22～52日	2,383
③437	16	34	80	1～16日	2,850	17～34日	2,148	35～80日	1,826
④438	27	57	133	1～27日	3,854	28～57日	2,901	58～133日	2,466
⑤439	3	5	9	1～3日	2,266	4～5日	1,854	6～9日	1,669
⑥440	5	11	23	1～5日	2,630	6～11日	1,944	12～23日	1,653

ICD 名称 (040080 に対応する傷病名)

- A379 百日咳, 詳細不明
A481 レジオネラ症 (在郷軍人病)
B012 水痘肺炎
B052 麻疹, 肺炎を合併するもの
B371 肺カンジダ症
B59 ニューモシスチス症
J13 肺炎レンサ球菌による肺炎
J14 インフルエンザ菌による肺炎
J15\$ 細菌性肺炎, 他に分類されないもの
J16\$ その他の感染病原体による肺炎, 他に分類されないもの
J17\$ 他に分類される疾患における肺炎
J18\$ 肺炎, 病原体不詳
J20\$ 急性気管支炎
J21\$ 急性細気管支炎

- A370 百日咳菌による百日咳
A378 その他のボルデテラ属菌種による百日咳
J22 詳細不明の急性下気道感染症

手術

手術あり

手術・処置等2

J045\$ 人工呼吸

定義副傷病

(*)

手術なし

040190 胸水, 胸膜の疾患 (その他)

050130 心不全

150021 偽膜性腸炎

(編注) ウイルス性肺炎は「040070」, 誤嚥性肺炎は「040081」,
間質性肺炎は「040110」に分類され, 細菌性・その他の肺炎が
本項「040080」に分類される。

手術

なし

① 1720 110310xx99xxxx

あり

その他の手術

定義副傷病

なし

② 1721 110310xx97xx0x

あり

③ 1722 110310xx97xx1x

K775等

定義副傷病

なし

④ 1723 110310xx01xx0x

あり

⑤ 1724 110310xx01xx1x

樹形図 番号	入院期間			A 日以下		A 日超 B 日以下		B 日超 C 日以下	
	A	B	C	入院期間①	点数/日	入院期間②	点数/日	入院期間③	点数/日
① 1720	5	11	23	1～5日	2,788	6～11日	2,061	12～23日	1,752
② 1721	11	23	55	1～11日	2,652	12～23日	1,980	24～55日	1,683
③ 1722	20	39	86	1～20日	2,690	21～39日	1,988	40～86日	1,690
④ 1723	6	12	28	1～6日	2,881	7～12日	2,130	13～28日	1,810
⑤ 1724	10	20	47	1～10日	2,941	11～20日	2,173	21～47日	1,847

ICD 名称 (110310 に対応する傷病名)

N10 急性尿細管間質性腎炎
 N136 膿腎 (症)
 N151 腎膿瘍および腎周囲膿瘍
 N390 尿路感染症, 部位不明

手術

その他の手術あり

K758 腎周囲膿瘍切開術
 K772 腎摘出術
 K772-2 腹腔鏡下腎摘出術
 K772-3 腹腔鏡下小切開腎摘出術
 その他の K コード

K775等

K775 経皮的腎 (腎盂) 瘻造設術
 K783-2 経尿道的尿管ステント留置術

手術・処置等 1

K775 経皮的腎 (腎盂) 瘻造設術
 K783-2 経尿道的尿管ステント留置術

定義副傷病

手術あり・なし共通

040081 誤嚥性肺炎
 180010 敗血症

手術あり

040080 肺炎, 急性気管支炎, 急性細気管支炎

樹形図 番号	入院期間			A 日以下		A 日超 B 日以下		B 日超 C 日以下	
	A	B	C	入院期間①	点数／日	入院期間②	点数／日	入院期間③	点数／日
①1487	7	15	28	1～7 日	2,492	8～15 日	1,842	16～28 日	1,565

ICD 名称（100070 に対応する傷病名）

- E112 インスリン非依存性糖尿病〈NIDDM〉 腎合併症を伴うもの
- E113 インスリン非依存性糖尿病〈NIDDM〉 眼合併症を伴うもの
- E114 インスリン非依存性糖尿病〈NIDDM〉 神経（学的）合併症を伴うもの
- E115 インスリン非依存性糖尿病〈NIDDM〉 末梢循環合併症を伴うもの

- E116 インスリン非依存性糖尿病〈NIDDM〉 その他の明示された合併症を伴うもの
- E117 インスリン非依存性糖尿病〈NIDDM〉 多発合併症を伴うもの
- E118 インスリン非依存性糖尿病〈NIDDM〉 詳細不明の合併症を伴うもの
- E119 インスリン非依存性糖尿病〈NIDDM〉 合併症を伴わないもの

手術

（※）

手術あり

手術・処置等 2

（※）

J0383 人工腎臓 その他の場合

DPC・一般病棟・療養病棟の点数比較

		DPC病名	呼吸不全(その他)			肺炎			尿路感染症		2型糖尿病		パーキンソン病	
		医療区分	気切	人工呼吸器	酸素療法		肺炎＋酸素	肺炎	尿路感染症		頻回の血糖検査		パーキンソン病	
DPC	1日単位	1～5日	2,685	3,195	2,685	1～6日	2,942	2,942	1～5日	2,788	1～7日	2,492	1～8日	2,439
		6～10日	1,984	2,526	1,984	7～13日	2,175	2,175	6～11日	2,061	8～15日	1,842	9～18日	1,853
		11～23日	1,687	2,147	1,687	14～28日	1,849	1,849	12～23日	1,752	16～28日	1,565	19～42日	1,575
一般病棟 入院基本料	1日単位 (30日超)	7対1	2,129	2,764	2,332		2,224	2,083		2,215		1,787		1,933
		10対1	1,870	2,505	2,073		1,965	1,824		1,956		1,528		1,674
		13対1	1,659	2,294	1,862		1,754	1,613		1,745		1,317		1,463
		15対1	1,498	2,133	1,701		1,593	1,452		1,584		1,156		1,302
療養病棟 入院基本料 ¹	1日単位	発熱なし	1,629	2,836	2,127		2,016	1,530		1,501		1,482		1,633
		発熱半分	1,821											

※一般病棟及び療養病棟の点数には、疾患ごとの標準的治療点数が含まれています。

※DPC算定期間を超えると、出来高での算定となる。

医療区分の状態におけるDPC疾患名を想定すると

医療区分	D P C
24時間持続して点滴を実施している状態	栄養障害（その他）、体液量減少症、胃の悪性腫瘍、脳梗塞、誤嚥性肺炎、敗血症
尿路感染症に対する治療を実施している状態	腎臓または尿路の感染症、腎・泌尿器の疾患（その他）、上部尿路疾患
傷病等によりリハビリテーションが必要な状態	脳梗塞、股関節大腿近位骨折、頸椎頸髄損傷
脱水に対する治療を実施している状態、かつ発熱を伴う状態	体液量減少症、ウイルス性腸炎、肺炎・急性気管支炎・急性細気管支炎
消化管等の体内からの出血が反復継続している状態	胃の悪性腫瘍、胃十二指腸潰瘍・胃憩室症・幽門狭窄（穿孔を伴うもの）、潰瘍性大腸炎
頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態、かつ、発熱を伴う状態	細菌性腸炎、ウイルス性腸炎、ヘルニアの記載のない腸閉塞、胃十二指腸潰瘍・胃憩室症・幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）
せん妄に対する治療を実施している状態	認知症、その他の精神及び行動の障害
経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われており、かつ、発熱又は嘔吐を伴う状態	くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、脳梗塞、脳血管障害、食道の悪性腫瘍
頻回の血糖検査を実施している状態	1型糖尿病（糖尿病性クetoアシドーシスを除く）、2型糖尿病（糖尿病性クetoアシドーシスを除く）
スモン	特発性（単）ニューロパチー
医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施している状態	徐脈性不整脈、肺循環疾患、播種性血管内凝固症候群、心不全
中心静脈栄養を実施している状態	誤嚥性肺炎、胆嚢水腫・胆嚢炎等、急性肺炎
人工呼吸器を使用している状態	脳梗塞、肺の悪性腫瘍、運動ニューロン疾患等
ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態	肺・縦隔の感染・膿瘍形成、胸水・胸膜の疾患（その他）、胆管（肝内外）結石・胆管炎
気管切開又は気管内挿管が行われており、かつ、発熱を伴う状態	脳梗塞、運動ニューロン疾患等、慢性閉塞性肺疾患
酸素療法を実施している状態	誤嚥性肺炎、運動ニューロン疾患等、慢性閉塞性肺疾患
感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状態	ウイルス性腸炎、インフルエンザ・ウイルス性肺炎、その他の感染症（真菌を除く）
筋ジストロフィー症	筋疾患（その他）
多発性硬化症	多発性硬化症
筋萎縮性側索硬化症	運動ニューロン疾患等
パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病（非-レビー・ヤルの重症度分類がステージ 3以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度の状態に限る。））	パーキンソン病、基底核等の変性疾患
その他の難病（スモン及び19～22までを除く。）	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患、重症筋無力症、その他の神経筋障害
青髄損傷（頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる場合に限る。）	頸椎頸髄損傷
慢性閉塞性肺疾患（ヒュー・ジョーンズの分類がⅤ度の状態に該当する場合に限る。）	慢性閉塞性肺疾患
人工腎臓、持続経徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法を実施している状態	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全
悪性腫瘍（医療用麻薬等の薬剤投与による疼痛コントロールが必要な場合に限る。）	肺の悪性腫瘍、胃の悪性腫瘍、大腸（上行結腸からS状結腸）の悪性腫瘍
肺炎に対する治療を実施している状態	肺炎・急性気管支炎・急性細気管支炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎
褥瘡に対する治療を実施している状態（皮膚層の部分的喪失が認められる場合又は褥瘡が2カ所以上に認められる場合に限る。）	褥瘡潰瘍
末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療を実施している状態	糖尿病足病変、閉塞性動脈疾患、静脈・リンパ管疾患
うつ症状に対する治療を実施している状態	気分[感情]障害
他者に対する暴行が毎日認められる状態	その他の精神及び行動の障害
1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態	脳梗塞、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患
気管切開又は気管内挿管が行われている状態（発熱を伴う状態を除く。）	脳梗塞、運動ニューロン疾患等、慢性閉塞性肺疾患
創傷（手術創や感染創を含む。）、皮膚潰瘍又は下腿若しくは足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療を実施している状態	

(参考)

認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記 II の状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記 II の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記 III の状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記 III の状態が見られる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク III に同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

認知症の行動・心理症状の頻度

○ 認知症の行動・心理症状で、頻繁にみられるものは、「興奮」「繰り返し尋ねる」であった。

	7 対 1 (n=30, 989)	10対 1 (n=1, 844)	HCU(n=430)	ICU(n=1,111)
興奮	3.2%	4.1%	3.7%	7.6%
繰り返し尋ねる	2.9%	4.3%	3.5%	4.4%
易怒性	1.5%	1.4%	2.1%	2.1%
徘徊	1.1%	1.9%	0.5%	0.0%
身体的攻撃性	0.9%	0.9%	2.3%	1.2%
泣き叫ぶ	0.7%	0.3%	0.5%	0.6%
その他	3.8%	3.7%	7.2%	4.9%
調査期間中に該当するBPSDはない	80.6%	70.2%	66.3%	69.7%
不明	10.8%	18.0%	19.3%	15.8%

認知症の有無と看護提供頻度

- 7対1入院基本料対象病棟において、認知症の有無と、看護提供頻度の関係をみると、認知症ありの患者に対する看護提供頻度は高かった。また、B項目2点以下の患者においても同様であった。

<7対1入院基本料>

	全体 (n=193,327)	認知症あり (n=13,454)	認知症なし (n=177,182)
1日に1～2回の処置や観察、アセスメントが必要	49.0%	26.2%	50.5%
1日に3回以上の処置や観察、アセスメントが必要	46.3%	61.9%	45.4%
毎時間以上の処置や観察、アセスメントが必要	4.7%	11.9%	4.2%

<7対1入院基本料:B項目2点以下>

	全体 (n=107,956)	認知症あり (n=1,491)	認知症なし (n=105,005)
1日に1～2回の処置や観察、アセスメントが必要	59.5%	39.2%	59.5%
1日に3回以上の処置や観察、アセスメントが必要	38.8%	48.7%	38.9%
毎時間以上の処置や観察、アセスメントが必要	1.7%	12.1%	1.6%

＜一般病棟用＞

＜特定集中治療室用＞

＜ハイケアユニット用＞

＜回復期リハビリテーション病棟 日常生活機能評価用＞

B 患者の状況等	
1	寝返り
2	起き上がり
3	座位保持
4	移乗
5	口腔清潔
6	食事摂取
7	衣服の着脱

「寝返り」
に集約

B 患者の状況等	
1	寝返り
2	起き上がり
3	座位保持
4	移乗
5	口腔清潔

B 患者の状況等	
1	床上安静の指示
2	どちらかの手を胸元まで持ち上げられる
3	寝返り
4	起き上がり
5	座位保持
6	移乗
7	移動方法
8	口腔清潔
9	食事摂取
10	衣服の着脱
11	他者への意思の伝達
12	診療・療養上の指示が通じる
13	危険行動

一般病棟
でも評価
対象とする

一般病棟用、ハイケアユニット用、特定集中治療室用のB項目を7項目に統一し単純化

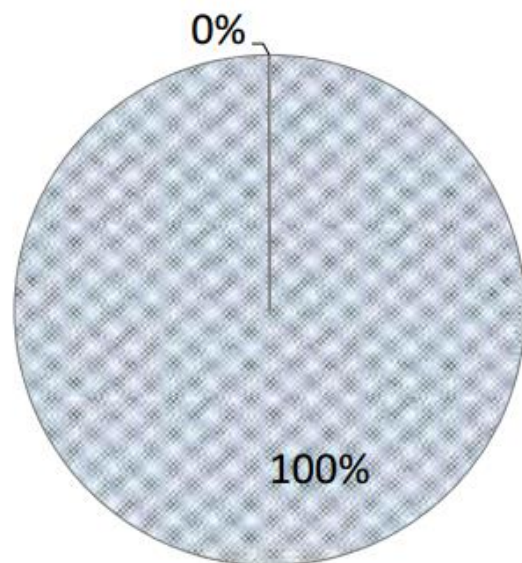
- 1.寝返り
- 2.移乗
- 3.口腔清潔
- 4.食事摂取
- 5.衣類の着脱
- 6.診療・療養上の指示が通じる
- 7.危険行動

平成27年7月16日(木)
平成27年度第5回 入院医療等
の調査・評価分科会 資料を
もとに武久洋三 作成

90日を超えて入院している患者の診療報酬の算定状況

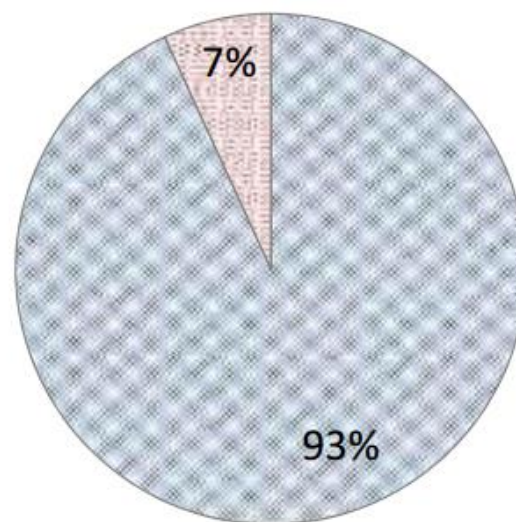
○ 7対1・10対1一般病棟で90日を超えて入院している患者のほとんどは、出来高での算定(平均在院日数の計算対象に含む)を選択している。

＜7対1一般病棟入院基本料＞



■ 出来高で算定 ■ 療養病棟と同等の報酬体系

＜10対1一般病棟入院基本料＞



■ 出来高で算定 ■ 療養病棟と同等の報酬体系

日本慢性期医療協会 調査(平成26年7月15日現在)

認知症自立度

	全病床 種別	医療療養 (20対1)	介護療 養型医 療施設	回復期 リハ病棟	医療療養 (25対1)	障害者施 設等入院 基本料	認知症治 療病棟以 外の精神 病棟	精神病棟 (認知症 治療病棟)	一般病床 (7対1)	一般病床 (15対1)	一般病床 (10対1)	特殊疾患 病棟	地域包括 ケア 病棟	一般病床 (13対1)
入院患者総数	10,143人	3,532人	2,641人	794人	741人	576人	571人	271人	256人	248人	224人	131人	82人	76人
正常：明らかに認知症が無いと 考えられるもの	1,411人 (13.9%)	353人 (10.0%)	59人 (2.2%)	283人 (35.6%)	85人 (11.5%)	65人 (11.3%)	262人 (45.9%)	0人 (0.0%)	118人 (46.1%)	40人 (16.1%)	88人 (39.3%)	13人 (9.9%)	7人 (8.5%)	38人 (50.0%)
認知症自立度Ⅰ (軽度認知症：MCIを含む)	472人 (4.7%)	129人 (3.7%)	34人 (1.3%)	139人 (17.5%)	25人 (3.4%)	28人 (4.9%)	31人 (5.4%)	0人 (0.0%)	25人 (9.8%)	24人 (9.7%)	29人 (12.9%)	2人 (1.5%)	5人 (6.1%)	1人 (1.3%)
認知症自立度Ⅱ	1,204人 (11.9%)	338人 (9.6%)	282人 (10.7%)	169人 (21.3%)	80人 (10.8%)	78人 (13.5%)	63人 (11.0%)	29人 (10.7%)	44人 (17.2%)	67人 (27.0%)	31人 (13.8%)	1人 (0.8%)	13人 (15.9%)	9人 (11.8%)
認知症自立度Ⅲ	3,172人 (31.3%)	1,232人 (34.9%)	1,000人 (37.9%)	143人 (18.0%)	282人 (38.1%)	161人 (28.0%)	108人 (18.9%)	48人 (17.7%)	30人 (11.7%)	65人 (26.2%)	59人 (26.3%)	16人 (12.2%)	17人 (20.7%)	11人 (14.5%)
認知症自立度Ⅳ	3,026人 (29.8%)	1,194人 (33.8%)	1,006人 (38.1%)	47人 (5.9%)	228人 (30.8%)	174人 (30.2%)	77人 (13.5%)	107人 (39.5%)	35人 (13.7%)	39人 (15.7%)	7人 (3.1%)	65人 (49.6%)	35人 (42.7%)	12人 (15.8%)
認知症自立度Ⅴ	858人 (8.5%)	286人 (8.1%)	260人 (9.8%)	13人 (1.6%)	41人 (5.5%)	70人 (12.2%)	30人 (5.3%)	87人 (32.1%)	4人 (1.6%)	13人 (5.2%)	10人 (4.5%)	34人 (26.0%)	5人 (6.1%)	5人 (6.6%)

認知症自立度Ⅱ～Ⅴの患者

	全病床種別	医療療養 (20対1)	介護療養型 医療施設
入院患者総数	10,143人	3,532人	2,641人
そのうち、認知症自立度Ⅱ～Ⅴの入院患者	8,260人 (81.4%)	3,050人 (86.4%)	2,548人 (96.5%)